



震災から2年を迎えるにあたり、亡くなられたすべての方々への追悼として演奏されたモーツァルトの「アヴェ・ヴェルム・コルプス」。清らかな演奏に涙ぐまれた方も多く見られました

生の言うことをよく聞く」「ヴァイオリンを大切にする」「友だちと助け合う」など独自の約束事を披露した後、楽器を持たずに、ミッキーマウスのマーチでステージ全体を使った体操を始めました。「ダンスや運動の要素を入れた

楽しい練習」はエル・システムならではの要素です。そして演奏したのが、「キラキラ星変奏曲」。おなじみの「タカカタカタツタ」や「キャラメル」を一生懸命に演奏する子どもたち。10月にスタートし、週に一度、1時間ほどの練習で、ここまでできたのです。心を合わせて一つの曲を仕上げる過程で得られた音楽の喜びは、子どもたちの将来に、きっと大きな財産になるはず。司会のインタビュアーに、頬を赤らめて「思ったよりもうまくできて、よかったです」と答えていた姿が印象的でした。

次の中村第一小学校器楽部は、昭和30年代から活躍している伝統があります。演奏曲もホルストの「セントポール組曲」など3曲。平成二十四年度東北放送主催「子ども音楽コンクール」会津地区大会優秀賞の実力を遺憾なく発揮していました。そして、この日が最後の演奏となる6年生を感謝の気持ちで送り出す大切な日でもありました。「音楽をやって来てよかったのは、最後まで諦めないことを学んだことです」と答えた生徒には、会場からも大

きなエールが送られました。桜丘小学校金管マーチング部が登場すると、ステージが、さらにきらびやかになりました。「マンボNo.5」は小学生と思えない表現力でしたし、「大きな古時計」では、しっかりとした情感を歌い上げていました。エル・システムの「集団での学習によるチームワークの熟成」そして「子ども同士の相互学習としてピア教育」が見事に成果を生んでいることがわかります。ちなみに、



桜丘小学校金管マーチング部は、勇壮なファンファーレで演奏をスタート。視覚も聴覚も満足させるような仕上がりでした



コンサート第2部で全員が着用したお揃いのTシャツの背中には、「音楽でつないでいこう!」のモットーが描かれていました

第一小学校器楽部、桜丘小学校金管



「キラキラ星変奏曲」を演奏する八幡小学校バイオリン教室の子どもたち。初めてヴァイオリンを手にした子どもたちの晴れ姿に、大きな拍手が送られました

無限の可能性にエール
プログラムの最初は、2012年10月にエル・システムジャパンの支援で生まれたばかりの八幡小学校バイオリン教室18名(1年生5年生)です。「先

上でも大きな一歩となりました。

相馬市が選ばれた理由は、第一に災害からの復興・発展に向け、相馬市が子どもたちの心のケアと教育に積極的に取り組んでいたこと、第二に、もともと民謡や音楽が盛んな土地柄で、積極的に関心を寄せた音楽関係者が市内に多くいたことが挙げられます。いずれにしても、この日の合同コンサートが、相馬プロジェクトの次を見据える上でも大きな一歩となりました。



子どもから始まるエネルギーの連鎖が、被災地を前進させる力になる
話題のエル・システムを導入した福島県相馬市の試み

相馬プロジェクトの大きな一歩

季刊誌前号の対談記事にご登場いただいた、菊川穂さん(きくかわほ)が代表理事を務めるエル・システムジャパンが、2月24日(日)、福島県相馬市総合福祉センター「はまなす館」で「エル・システムジャパン 相馬ジョイントコンサート」を開催しました。これは「音楽を通して生きる力を育む」ために、相馬市とエル・システムジャパンが協定を結んだ事業の一環で、必要な楽器の無償提供や講師の派遣など、相馬市教育委員会を支援する形で行なっており

マーチング部、桜丘小学校合唱部の総勢157名。会場は満席、マスメディアも多数押しかけ、熱気に溢れたコンサートになりました。

ベネズエラで生まれた社会教育システムとして世界30カ国以上に広まっているエル・システムですが、今回のような災害を受けた地域における復旧・復興を目指したプロジェクトは、世